

# 第7回東海川崎病研究会

## プログラム

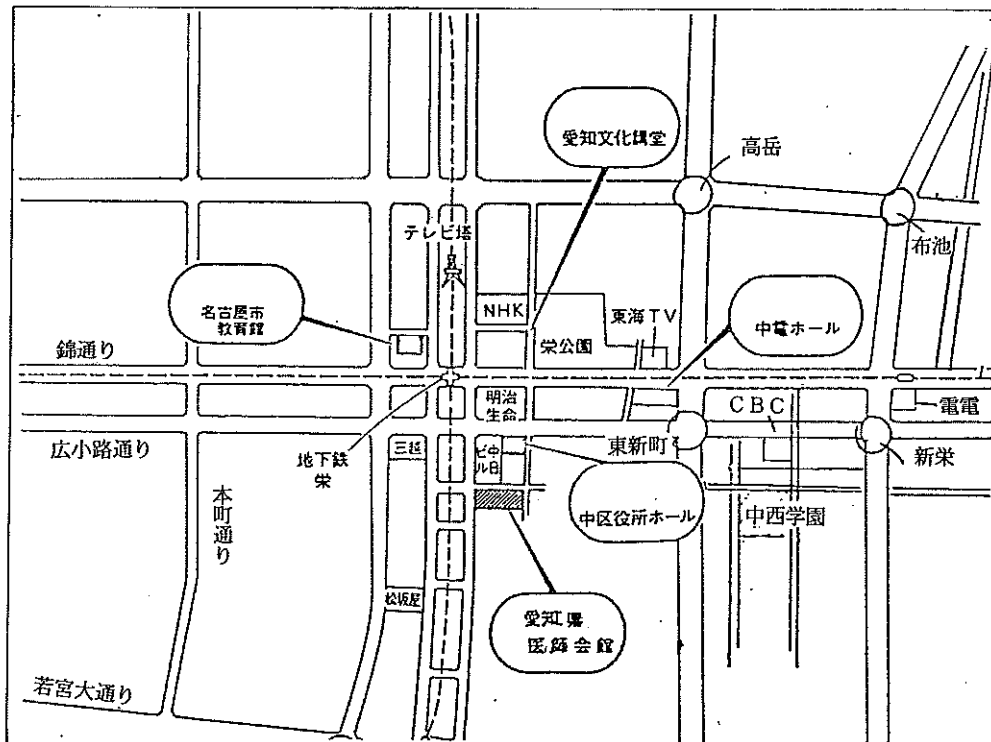
日時 昭和62年5月30日(土) 午後2時～6時  
場所 愛知県医師会会館 地下1階「健康教育講堂」

名古屋市中区栄4丁目14番28号

TEL (052) 241-4136

- 口演時間：6分
- 討論時間：5分
- スライドは一面のみ使用です。図表はライカ版スライドでお願いします。
- 「会誌」の作成を予定しております。演者には改めてご連絡申し上げます。

愛知県医師会館ごあんない図



当番幹事 名古屋第一赤十字病院 小児科 杉浦潤一  
事務局 愛知医科大学 小児科学教室

ネク No. 1

## プログラム

14:00 1. 開会の辞 名古屋第一赤十字病院 小児科 杉浦潤一

### 2. 一般演題

14:05 座長 愛知医科大学 小児科 田宮 寛

(1) 4回川崎病に罹患した1例

国立名古屋病院 小児科 ○渡辺俊彦、中村郁哉、野々田 亨  
子安春樹、北條泰男、小崎 武

(2) 川崎病が疑われた2成人例

愛知医科大学 第3内科 ○森 光春、本村日出男、小林 正  
渡辺 務

(3) 川崎病病因ウイルスの検討

藤田学園保健衛生大学 小児科 ○須賀定雄、梶田祐司、坂倉尚子  
永井崇雄、大須賀明子、浅野喜造  
矢崎雄彦

(4) 家兎における実験的血管炎 ——その4——

愛知医科大学 小児科 ○田宮 寛、尾内善四郎、榊原吉峰  
第2病理 生田耕司、永松潔和

(5) 川崎病に於ける僧帽弁逆流の予後

名古屋第一赤十字病院 小児科 ○羽田野為夫、辻 明人、杉浦潤一

15:00

座長 名古屋第一赤十字病院 小児科 羽田野為夫

(6) 心筋炎・DICを合併し、Intact  $\gamma$ -globulin 大量療法が無効であった川崎病の3カ月男児例

豊橋市民病院 小児科 ○松林 正、水谷文彦、藤本伸治  
加藤稲子、鈴木賀己、松本延男、  
西村 豊

(7) 川崎病免疫グロブリン療法の無効例

(死亡例及び冠動脈病変を残存した10例)

○矢守信昭<sup>1</sup>、馬庭浩子<sup>1</sup>、水野寛太郎<sup>1</sup>、松本 博<sup>1</sup>、杉山幸八郎<sup>1</sup>、  
加藤敏行<sup>1</sup>、和田義郎<sup>1</sup>、岩佐充二<sup>2</sup>、安藤恒三郎<sup>2</sup>、松林 正<sup>3</sup>、  
西村 豊<sup>3</sup>、滝沢美恵子<sup>4</sup>、岡本樹身<sup>4</sup>、水口宏平<sup>5</sup>、中野正大<sup>5</sup>  
伊藤栄源<sup>6</sup>、小久保 稔<sup>7</sup>、田中壮一<sup>7</sup> 尾坂行雄(現国立恵那病院)<sup>7</sup>、  
伊藤道男(現いとう子供クリニック)<sup>7</sup>

1 名古屋市立大学病院 小児科 2 名古屋第二赤十字病院 小児科  
3 豊橋市民病院 小児科 4 蒲郡市民病院 小児科  
5 岐阜県立多治見病院 小児科 6 名古屋市立城西病院 小児科  
7 小牧市民病院 小児科

(8) 川崎病ガンマグロブリン療法の治療開始病日と治療効果について

岐阜県立多治見病院 小児科 ○中野正大、鈴木達雄、島田治子  
上村 治、水口宏平、河辺義和

(9) 川崎病に対する大量免疫グロブリン療法

——発熱期間とエコー所見による適応——

○松島正気<sup>1</sup>、小川昭正<sup>1</sup>、奥村直哉<sup>1</sup>、伊東重光<sup>2</sup>、長嶋正実<sup>3</sup>、  
松岡 宏<sup>3</sup>、北條泰男<sup>4</sup>、杉浦潤一<sup>5</sup>、岩瀬勝彦<sup>6</sup>、大須賀明子<sup>7</sup>、  
田内宣生<sup>8</sup>、尾崎隆男<sup>9</sup>、矢沢 武<sup>10</sup>、肥田康俊<sup>11</sup>、屋富祖正光<sup>12</sup>、  
種田陽一<sup>13</sup>、近藤龍二<sup>14</sup>、久野邦義<sup>15</sup>

1 社会保険中京病院 小児循環器科 2 社会保険中京病院 小児科  
3 名古屋大学 小児科 4 国立名古屋病院 小児科  
5 名古屋第一赤十字病院 小児科 6 加茂病院 小児科  
7 藤田学園保健衛生大学 小児科 8 名城病院 小児循環器科  
9 昭和病院 小児科 10 市立岡崎病院 小児科  
11 常滑市民病院 小児科 12 豊川市民病院 小児科  
13 知多市民病院 小児科 14 市立半田病院 小児科  
15 安城更生病院 小児科

オク No. 3

17:00 3. 特別講演 司会 名古屋第一赤十字病院 小児科 杉浦潤一

I. 「川崎病の子供をもつ親の会」のあゆみと医師への要望

川崎病の子供をもつ親の会 代表 浅井 満

1982年発足した「川崎病の子供をもつ親の会」は会員1500人の力によって、全国各地で活動してまいりました。

1984年には、全国アンケート調査を実施し、選択的調査項目とは別に、自由記述方式で“医師への要望”の項目を設定しました。回収できた3185通の生の声をまとめあげ、親の側からの川崎病と医師への要望を中心に発表します。

II. 「東海川崎病の会」の意義と親の不安

川崎病の子供をもつ親の会

愛知・岐阜・三重県連絡会 代表 宗石 勝弘

1983年「川崎病の子供をもつ親の会」の地域連絡会として発足した「東海川崎の会」は地域に根ざして、顔を見合わせながらの話し合いを中心に活動してまいりました。

医療相談会・懇談会を開催していく中で、知り得た親のホンネ・不安を中心に発表します。

18:00 4. 閉会の辞 愛知医科大学 小児科 尾内善四郎